

「三輪のまち」大津

それを証明するかのごとく「8耐」は夜のHSR九州を輝かせた

8時間耐久レース



昨年の12月19日〜20日「8時間耐久レース HSR九州ミニバイクチャンピオン決定戦第二章」が、ホンダセーフティ&ライディング・プラザ九州(通称HSR九州)で行われました。今年で2回目この大会は、全90台のミニバイク(2サイクルのエンジンは50CC。4サイクルのエンジンは100CC)で、カテゴリーごとに順位を競うレースです。ライダーは、午前9時から午後5時までの8時間、チームのメンバーと交代しながら走ります。午後4時を過ぎるとバイクからライトの光が伸び、夜のサーキットを照らし、レースを盛り上げていました。



▶SP100部門で見事3位入賞した田尻悠人くん(大津中2年)と田尻亮行くん(大津中1年)。昨年の4位入賞に続き、活躍しています。



その野菜が放っていた輝きは食の大切さを学んだみんなの目の中にもあった

地域でつながる食育モデル事業

昨年9月から12月まで「地域でつながる食育モデル事業」が行われました。JA菊池青壮年部大津支部が主催で行う県の委託事業で、町の企業から募集した家族や同僚の8グループが約4カ月間、食について学びました。約30平方メートルの農地に各グループが大根やじゃがいもなどの野菜をつくります。無農薬か減農薬を選び、毎月一回農業相談会を行いました。そして11月から12月にかけて収穫を行い、その後、自分たちで作った野菜を使ってだご汁などを作りました。参加した人々からは「野菜を育てることが食への大事さを子どもと共有できた」「初めて野菜を育て、その大変さを学んだ」などの声が上がりました。



- 1 第1回では講習会を行い、基本的なことを教わりました
- 2 乳搾り体験では搾りたての牛乳を「おいしい〜♪」
- 3 親子で仲良く植えていきます「いい野菜に育ってね」
- 4 食味会では、自分たちで作った野菜を調理しました



つくる人と食べる人 心が通えば明日の農業は明るい

食の大切さを伝えるために「自分たちが責任を持って野菜をつくる」ことに重きを置いた県内でも珍しい事業だった。「自分たちが手伝い、管理することは簡単なことです。しかし多くの手間をかけなければ、野菜は商品にならないことを知って欲しかった」と上田さんは話す。生産者と消費者の気持ちを通い合えば、食物を大切にすることが生まれ、食育が大切になる。事業の期間が長かったからこそ、お互いの心が通い合うことができた。

うえだ ひろのぶ
上田 浩信さん

JA菊池青壮年部大津支部長

一章、二章と続くようにこのレースを 大事にしていきたい

耐久レースは数多くあるが、8時間の耐久レースは多くはない。「8耐には魔物が住んでいると言われるんです」と齋藤さんは8耐の魅力語る。2年前まで開催されていた6耐から2時間長くなるだけで、疲労は相当なものになると言う。参加チームは90台。「大変ですが、レースに参加しない人でも楽しめるようにしていきたいんです」会場には子ども用のエア遊具があり、子どもたちを楽しませていた。

さいとう だいすけ
齋藤 大介さん

HSR九州 チーフ